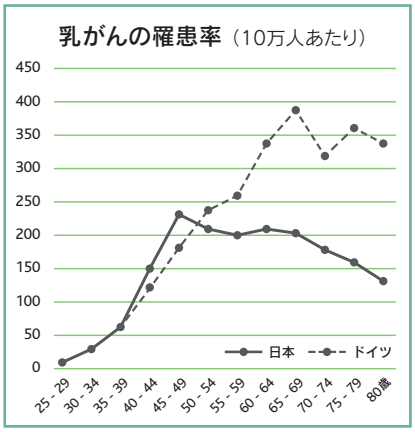
乳がんの話（その1）

最近、乳がんにかかる女性が増えてきたという話をよく聞きませんか。
何人かの著名人が公表したことも影響して、人々の関心が高まっているこの頃です。
そこで２回にわたって、乳がんについて簡単にご説明したいと思います。

Text by 欧州日本人医師会　加藤恵一 医師／産婦人科（バイエルン ドイツ）

乳がんにかかる確率

私が仕事をしているドイツでは、以前は 11 人に 1 人の割合で乳がんになるといわれていましたが、最近では 8 人に 1 人とされています（生涯罹患率※は 9% から 13%に上昇）。日本ではまだこれよりも低く、14 人に 1 人（生涯罹患率は 7%）です。



右の図は日本とドイツでの乳がんの罹患率を比較したものですが、全体としてドイツの方が高い数値を示しています。ただ、大きな違いがお分りでしょうか。そうです、ドイツでは高齢になるほど危険性が上昇して、ピークは 65 歳から 69 歳になっています。それに比べて日本では若い女性の発症率が高く、40 歳から 49 歳では、ドイツよりも発症頻度が上回っています。そして、45 歳から 49 歳が最も高く、その後ゆっくりと低下しています。この原因はまだわかっていません。

※対象となる人の生涯において罹患する確率

早期発見のために

このことから日本乳癌学会の診療ガイドラインでは、レントゲン検査であるマンモグラフィを 40 歳から受けることを勧めています。しかし、ドイツのみならず欧州では、上のデータから、検診は 50 歳からとなっています。もし 40 歳での検診がまだ早いと言われたら、欧州の医師はこの違いを知らないので、これらの事情を説明して検査を受けてください。

ちなみにドイツは世界で数少ない、外科ではなく産婦人科が乳がんを扱う国の一つです。以前は外科の分野でしたが、1970 年代に外科と産婦人科が取り合いをして、「乳房は授乳に必要な器官なのだから産婦人科の領域だ」という主張が通り、今の形になったそうです。

乳がんと診断されたら

もし検査で乳がんと診断されてもパニックに陥らないでください。乳がんは、分りやすい言葉で言うと“治りやすい”がんです。がんがまだ小さく 2 センチ以下（1 期）であれば、5 年生存率は 96%です。2 センチから 5 センチ（2 期）でも 90%です。精神的な動揺は当然ですが、落ち着いて治療に専念されることをお勧めします。私が初めて乳がんの治療にあたった 30 年前に比べると、治療法は大幅に進歩しています。

データ参照：国立がん研究センター 2015（日本）、
Robert Koch Institute 2015（ドイツ）、日本乳癌学会 HP

欧州日本人医師会 電話無料健康相談のご案内

（ご注意：診察ではありません）

欧州９カ国、20 名余りの非営利団体に属する日本人医師が、海外赴任や旅行など不慣れな海外生活での医療に関する、無料の健康相談を行います。

● 健康相談日時：月～木曜日

（ヨーロッパ中央時間）	月・水・木曜日	21:00 – 22:00
	火曜日	22:00 – 23:00
（イギリスおよび アイルランド）	月・水・木曜日	20:00 – 21:00
	火曜日	21:00 – 22:00

● 電話番号：**+49 9951 9493 399**

※この電話番号は相談専用電話のため、上記の時間以外は使えませんのでご注意ください。

無料健康相談担当医師一覧は以下のサイトでご確認ください。
http://www.eu-jp-doctors.org